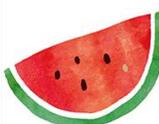


おかげさまで、
国語
 題字 磯村 彰久先生


 岡崎市現職研修委員会
 国語部
 令和4年7月4日(火)
 第1号

「願い」をもって学ぶこと

現職研修委員会 国語部長 磯村 彰久

「こうちようせんせい わたしは みんなと なかよく します。といれの すりっば そろえます。みちがえる」

まだ平仮名を習っている途中の一年生からもらった手紙です。私の学校(福岡小)では、自分の願うなりた姿を「みちガエル」と呼んでいます。間違えることを恐れずに進んで「まちガエル」となって新しいこと、苦手なことにチャレンジをし、失敗したり間違えたりしたら「かんガエル」となって一生懸命に考えます。そして、「ふりカエル」となりながら何度でもやり直し、いつか見違えるくらいに成長した「みちガエル」となることを目指して努力していきます。校舎のあちこちに、子供たちが描いた四匹の「カエル」が飾られ、子供たちを励ま

しています。

本校では、教育の目的に「将来『自立』して生きていける子供の育成」を掲げています。子供たちが将来「自立」した人間となるためには、常に自らの「願い」に立ち戻りながら学び続けることが大切です。

授業でも、様々な行事でも、子供に明確な「願い」もたせることができれば、自らが置かれている状況の中で試行錯誤をしながら粘り強く活動します。教師が手を離しても、少しずつでも確実にゴールに近づいていくことができます。当然ですが、これは子供たちの主体性を伸ばすための大切なポイントです。

ところで、国語科には、スピーチ、作文、リーフレット等々、様々な表現の学習があります。こうした表現の学習において

も、子供たちに「願い」をもたせることが重要です。授業において、ときに技能面の指導にとどまってしまうことがありますが、気をつけなければなりません。

大人が社会生活の中で何か表現しなければなくなったときには、そこには必ず表現者の「願い」が込められているはずで、その「願い」がかなうように、人はいろいろと工夫と努力をします。子供たちにその過程を経験させないで、表現技能のみを身に付けさせようとする、実際に大人になってからの「自立」に役立つ表現の力とはなりません。

まず表現活動に入る前に、子供が「願い」をもって取り組めるようにするため、教材との出合わせを工夫する必要があります。その「願い」が達成できるようにするにはどうするのでしょうかが単元計画となり、子供にとっての見通しとなり、子供の手順を踏まないこと、子供の主体性を育てることとは、付

いて見学地を回り、建物の説明を聞くだけのような授業となってしまう。

ここでの「願い」は、表現の学習において「目的」と言い換えることができます。学習の最初に子供たちと「目的」を具体的に共有し、その表現の「相手」「方法」「条件」「評価」の確認が行われていけば、あとは子供たちが自ら自然に動き出していきます。目的、相手、方法、条件、評価を、表現における五つの「言語意識」と呼びます。単元の学習の間は、常にこれらの言語意識の立ち返る必要があります。全員がこれらの言語意識をもっていることで、お互いの表現をより良くするために関わり合いが可能となります。

蛇足ではありますが、こうしたことが理解の学習では逆の方向で行われます。作者や筆者は文章に「願い」を込めて書いています。そのため、作者がこの物語や小説にどんな「願い」を込めているかを探ることが主題の読み取りとなります。また、筆者がこの説明的文章や論説文にどんな「願い」を込めているのかを探ることが要旨の読み取りとなっていきます。理解の学習においても、「願い」がキーワードとなります。

先生たちには、子供たちの「願い」に敏感になって国語科の指導に取り組んでもらいたいと思います。

国語部行事予定

- ・七月二十一日(金)
授業力・教師力アップセミナー
〈基礎編〉
国語・書写・図書館
(総合学習センター)
- ・七月二十八日(金)
三教研(書写) 実技講習会
(むらさきかん)
- ・八月一日(火)
授業力・教師力アップセミナー
〈専門編〉
国語・書写・図書館
(総合学習センター)
- ・八月四日(金)
三教研(国語) 夏季研修
(新城文化会館)
- ※提案 翔南中 次井祥太先生
岡崎市教育研究大会
(総合学習センター)
- ・九月十二日(火)
第二回国語主任会・作文審査会
(総合学習センター)
- ・十一月七日(火)
第二回書写主任会
(総合学習センター)
- ・一月十六日(火)
第三回国語・書写主任会
(総合学習センター)
- ・一月二十日(土)
岡崎市小中学校書写初め展
(岡崎市美術館)
- ※「形成の会」岡崎・幸田例会
一月中旬開催予定
- ※「さわらびの会」
年間三回開催予定

本年度の研究の方向

本年度の研究主題は「言葉の力を磨き、高まりを実感できる授業」(四年次)です。研究主題に沿った、よりよい授業を目指し、実践に取り組んでいきたいと思います。

今年度も国語部は、「小学校文学・説明文」「小学校 表現・書写」「中学校」で、研究を進めます。

●重点的に取り組む視点

①「言葉の力」を付け、鍛え、磨く授業

重視すべきは学びの主体性である。言葉に対する見方・考え方を働かせ、認識を深めることに、子供自身が必要性を感じ、自ら学びに向かうことが求められる。

②個の学びを生かし、仲間とともに磨き合う授業

ポイントは、思考の「見える化」である。それぞれの考えのずれや違いを明確にしたり、焦点化して深めたりすることが求められる。

③生きてはたらく学力を育てる授業

大切にすべきは、人との関わりの中で思考力や想像力を養い、伝え合う力を高めるとともに、知識及び技能の習得を図ることである。また、振り返りの充実も重要である。子供が学びをメタ認知し、実生活に生かすことができるような振り返りの工夫が求められる。

教育研究大会に向けて

八月三十日(水)に行われる、「岡崎市教育研究大会」に向けて、レポートの作成をお願いします。

小学校の分科会については、「読むこと」が研究のねらい・活動の中心になっている指導実践は『文学・説明文(小)』の分科会で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が研究のねらい・活動の中心になっている指導実践は『表現・書写(小)』の分科会での提出をお願いします。

し、岡崎の教員の力量向上につながる研究大会にしていきましょう。

岡崎市小中学生作文コンクール 文集「おかざき」

岡崎市小中学生作文コンクールに向け、今後取り組まれることと思えます。国語部ホームページに、「生活作文の書き方」や「指導補助プリント」等の資料が掲載されています。ご利用ください。書くことを通して、子供の認識力を高めていくことができますように、作文指導をよろしくお願いします。

○審査会

九月八日(金)
九月十二日(火)



国語教育自主研究サークル 「さわらびの会」

国語・書写の授業力向上をめざして、六月十三日(火)に第一回さわらびの会を開催しました。「お悩み解決! 子どもが活躍する国語の授業って!？」と題して、授業での困り感を共有したり、うまくいったことや解決方法、効果的だった手だてなどについて話し合ったりしました。



【参加者の声】

○「国語科で学んだことを日常で活用できるようにする」というとても大切なことを忘れていました。明日からの授業だけでなく、日常生活の中でも子供たちの国語力を向上できるように、私も学び続けたいと思いました。

○日々の授業で子供が「やりたい」と思える課題設定の方法や教材のアイデア等を知ることができ、良い学びになりました。

今後も、国語・書写の授業力向上につながる研修を実施していきます。ぜひ、ご参加ください。